地域おこし協力隊

ねまがり新聞

2026年　夏

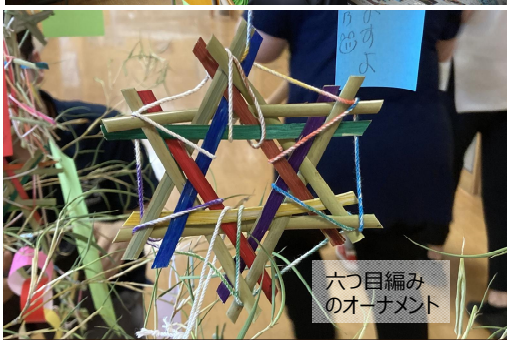


竹小常津細中盤軽工学野中講校座

学校を通じた伝統工芸の啓蒙活動について主にご紹介致します！

６月２９日に常盤野小中学校にて
根曲がり竹細工講座を開催（伊谷・上田・政本隊員）





常盤野小中学校の協力のもと、弘前市産業育成課と岩木地区地域おこし協力隊３名とで、竹細工講座を開催しました。七夕の日が近いこともあり、七夕飾りを根曲がり竹で制作し、願い事を書いて笹に飾りました。

「のんびりできますように」「陸上の大会に出られるようになりたい」
「じがよめますように」「さいしゅうてきにしあわせになれますように」
「世界が平和であるように　自然が自然の姿でありつづけるように
大金持ちになって自然の保護につかいたい」

１年生から６年生まで 16 名の様々な願いをのせて竹細工が飾られました。受講者の年齢と授業時間を考慮して、政本隊員の発案で「かごのような立体ではなく、容易な平面を編もう」となり、伊谷隊員の発案で「りんご手かごに使われる六つ目編みのオーナメント」を作ることにし、上田隊員の発案で「七夕祭りの願いごとをするコンセプト」で講座を組み立てました。また、校長先生の計らいで、講座を始める直前に、生徒と一緒に給食を食べ、お昼休みにドッヂボールやサッカーを楽しみました。そのため、講座開始前から親睦を深め、和気あいあいとした時間となりました。他県から移住者を集めるほど魅力的な伝統工芸「津軽竹籠」が地元にあることに、誇りと関心が広がることを星に願いました。

４月から９月まで津軽中学校にて
ふるさと出前講座「津軽竹かご」を開催中（伊谷・上田隊員）





津軽中学校が毎年行う「ふるさと出前講座」に参加することとなりました。同講座は「こぎん刺し」「津軽塗り」「ねぷた絵」「あけびづる細工」などの伝統工芸や「津軽三味線」「登山囃子」「獅子踊り」といった無形文化財を学習し、文化祭で作品や芸能を披露する取り組みです。昨年の岩木文化祭にて私たちの活動を知った津軽中学校の教員から依頼を受け、講師を務めることになりました。講座の様子は陸奥新報や、NHK あっぷるワイドにて報道頂きました。全９回の講座を通じて、小さなかごを制作します。かご作りに加えて、津軽竹細工の特色や、デザインの発想方法などの座学も行い、伝統工芸やプロダクトデザインの魅力を伝え、地元の魅力を誇りをもって未来につなぐ人財育成を図っています。

８月１日２日に岩木地区 賀田にてワークショップ開催（伊谷隊員）





こぎん刺しクリエーターのグループ展（MADE IN Tsu-girl 主催）のワークショップスペースにて、津軽竹かごのワークショップを開催しました。作ったのは、手のひらにちょこんと乗る「針山入れにもなるミニミニ小物入れ」。お菓子を入れたり針山にしたり、手仕事と自然素材ならではの温もりが詰まったかわいらしい一品です。「竹に触るのが初めて」「自分にできるか不安」という方でも気軽に参加できるよう、１コマ最大２人までの少人数制に。参加者をしっかりフォローしながら、無理なく集中して楽しんでもらえるよう、30 分～1 時間ほどで完成する内容にしました。竹を編む楽しさはもちろん、「作る大変さ」も含めて体験していただくことで、津軽竹かごの価値や魅力を少しでも身近に感じてもらえたなら嬉しいです。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました！

７月１日から６日まで北海道比布町（ぴっぷちょう）・妹背牛町（もせうしちょう）にて根曲がり竹細工の視察・技術研修を実施（政本隊員）







竹細工の技術向上と職人としての自立に向けたノウハウ獲得を目的に、北海道比布町および妹背牛町を訪れ、根曲がり竹細工の視察・技術研修を行いました。

今回の研修では、比布町「北の竹工房」の近藤幸男氏、現役の比布町地域おこし協力隊・前田泰輔氏、元隊員で現在は職人として活動する野村俊也氏・奈緒美氏ご夫妻のご協力のもと、根曲がり竹の切り出しから下ごしらえ、割り剥ぎ、籠編み、完成までの一連の職人仕事を実践しました。

北海道の竹細工技術に触れ、青森県の伝統工芸「津軽竹籠」との技法の違いや共通点を把握できたことは極めて有意義な経験となりました。また、同じ地域おこし協力隊という制度を活用し、伝統工芸の継承と定住化に挑む先達たちと深く交流できたことは大きな収穫です。先輩職人たちの活動プロセスや課題を共有したことで、自身の任期中、そして任期後に取り組むべき活動がより明確になりました。

本研修で得た知見とネットワークを活かし、職人への道を邁進するとともに、津軽竹籠の技術継承へ一層取り組んで参ります。

編集後記

岩木地区に移住して２回目の春夏を過ごしました。雪解けの春に桜の美しさに圧倒された後、山菜の美味しさにも魅了されました。そして、涼しいはずの青森の夏は、温暖化のせいでしょうか、暑いです。が、京都よりも湿度が少なく、陽が沈むと涼しいので、とても過ごしやすいです。さて、今号は学校イベント紹介がメインでした。元気で礼儀正しく、純粋無垢な笑顔に癒されます。都会では少なくなってきているものがあるように思えました。長く住みたい町です。上田倫未（ともみ）